

1 全体像	2・3 人口	4・5 資源とエネルギー	6～11 産業	12・13 交通・通信	14 地域区分	15 まとめ
-------	--------	--------------	---------	-------------	---------	--------

1 この単元の全体像 ― 日本の人口・資源・産業には、どんな特色がある？

このページのゴール
 この単元で学ぶ6つのことを、ざっと言える

単元⑤で、日本の自然（地形・気候・災害）を学びました。こんどは、そこに住む人々（人口）と、くらしを支える資源・エネルギー・産業・交通を学びます。ニュースで聞く「少子高齢化」「電気代」「食料の輸入」も、この単元を学ぶと分かるようになります。

数で見る日本のくらし	数
人口	約1億2300万人（2025年）
65歳以上の割合	29.4%（2025年）
エネルギー自給率	約16%（2024年度）
食料自給率	37%（2025年度）
第三次産業で働く人	73.4%（2020年）
国内の貨物	約6割がトラック（2024年度）

日本を見る4つの見方は、つながっています。

- ① 自然環境（単元⑤）：地形や気候のようす
- ② 人口：平野に人が集まる
- ③ 資源・エネルギーと産業：人が多い海沿いに、工業が発達する
- ④ 交通・通信：人と物を運び、各地をつなぐ

① 人口

くわしくは2・3ページ

日本の人口の移り変わりと、人口が集まる所・少ない所

② 資源とエネルギー

くわしくは4・5ページ

石油などの輸入と、電気のつくり方

③ 産業の分け方と農林水産業

くわしくは6～8ページ

働く人の分け方と、農業・林業・水産業

④ 工業と商業・サービス業

くわしくは9～11ページ

工業がさかんな所と変化、店やサービスの仕事

⑤ 交通・通信

くわしくは12・13ページ

国内の輸送と、世界との結びつき

⑥ 地域区分

くわしくは14ページ

いろいろな見方で日本を分ける

この単元の問い
 日本の人口・資源・産業には、どのような特色と課題がある？（答えは15ページ）

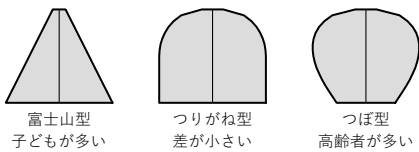
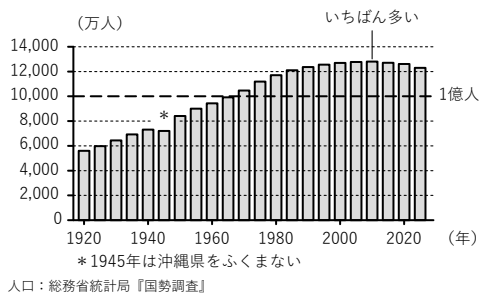
注意
 ×日本は工業がさかんなので、資源やエネルギーも自分の国でまかなえる → エネルギー自給率は約16%で、石油などのほとんどを輸入している（4ページ）

合言葉
 「人口・資源・産業・交通で日本をつかむ」

この単元の解説記事（図と例題つき）：
 [かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com/%e3%80%90%e4%b8%ad1%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e5%9c%b0%e7%90%86%e3%80%91%e6%97%a5%e6%9c%ac%e3%81%ae%e4%ba%ba%e5%8f%a3%e3%83%bb%e)
<https://katekyo-note.com/%e3%80%90%e4%b8%ad1%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e5%9c%b0%e7%90%86%e3%80%91%e6%97%a5%e6%9c%ac%e3%81%ae%e4%ba%ba%e5%8f%a3%e3%83%bb%e>

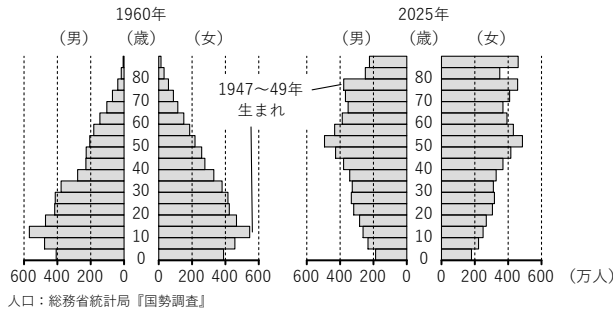
2 日本の人口は、どう変わってきた？

このページのゴール 日本の人口の移り変わり、人口ピラミッドの3つの型、少子高齢化を言える



年齢ごと・男女別の人口を表したグラフを人口ピラミッドという

日本の人口は、1965～1970年の間に1億人をこえ、2008～2010年ごろにいちばん多くなり、その後へり始めました。



型	ようす
富士山型	子どもが多く、高齢者が少ない
つりがね型	子どもと高齢者の数の差が小さい
つぼ型	子どもが少なく、高齢者が多い
日本	富士山型 → つりがね型 → 今はつぼ型に近い

出っばりは、年とともに上へ動く 1947～1949年の第1次ベビーブームに生まれた人は、1960年のグラフでは10～14歳、2025年のグラフでは75～79歳の所に、出っばりとして見えます。5年たつと1段上へ動くので、出っばりが何歳の所にあるかで、何年のグラフかが分かります。

子どもがへること（少子化）と、65歳以上の割合が高くなること（高齢化）を合わせて、少子高齢化という

65歳以上の割合（国勢調査）：1950年 4.9%・1970年 7.1%・1990年 12.1%・2010年 23.0%・2025年 29.4%。
合計特殊出生率＝1人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均。2025年は1.14で過去最低（人口を保つには約2.07が必要）。少子化のわけは、結婚する年齢が上がったこと、子育てにお金がかかることなどと考えられています。高齢化は、医療が進み、長生きする人がふえたためです。働く世代がへり、医療・介護・年金を支える人の負担が大きくなります。

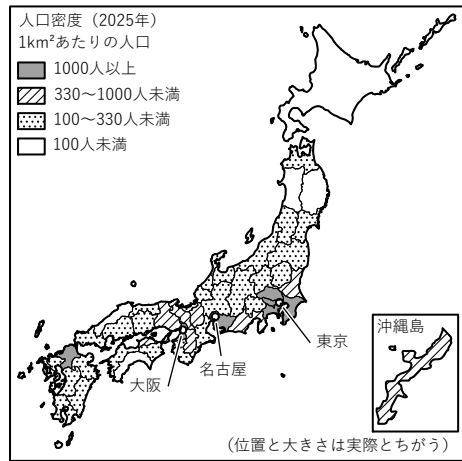
日本の特色：日本は少子高齢化が進み、人口がへり始めている

3

日本の人口は、どこに多い？

このページのゴール

人口が集まる所と少ない所、過密と過疎の問題と取り組みを言える



人口：総務省統計局『国勢調査』 地図：Natural Earth

- 1km²あたりの人口を人口密度という。日本は約330人（2025年）で、世界の平均の約5倍。
- 三大都市圏**（東京・大阪・名古屋を中心とする地域）に、人口の約半分が住む（2026年）。
- 東京圏**（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）に、約3割（30.1%、2025年）が住む。
- 札幌市・仙台市・広島市・福岡市のような**地方中枢都市**にも、人が集まる。
- 2020～2025年に人口がふえたのは、東京都だけ。

過疎地域はどのくらい？ 全国の市町村の約半分（2025年）、面積は国土の約6割。でも人口は約1割（2020年）。

人口が集まりすぎることを過密、人口がへりすぎて地域の生活を保つのが難しくなることを過疎という

	過密	過疎
起きる問題	交通渋滞。通勤や通学の電車の混雑。住宅不足。ごみの処理	バスや鉄道の本数がへる・路線がなくなる。学校や病院が閉じる。高齢者の割合が高くなり、地域の行事や田畑・森林の手入れが難しくなる
取り組み	郊外に <u>ニュータウン</u> をつくる。都市の <u>再開発</u> 。鉄道の整備	地域の特産品や観光で地域を元気にする（ <u>地域おこし</u> ）。移り住む人をむかえる

都市の中の人口の動き
地価の高い都心から郊外へ人が移り、都心の人口がへることをドーナツ化現象という。都心に高層マンションなどが建ち、人口がまたふえることを都心回帰という。

Uターン・Iターン
Uターン＝地方から都市に出た人が、生まれた地方にもどって住むこと。**！**
ターン＝都市で生まれ育った人が、地方に移り住むこと。

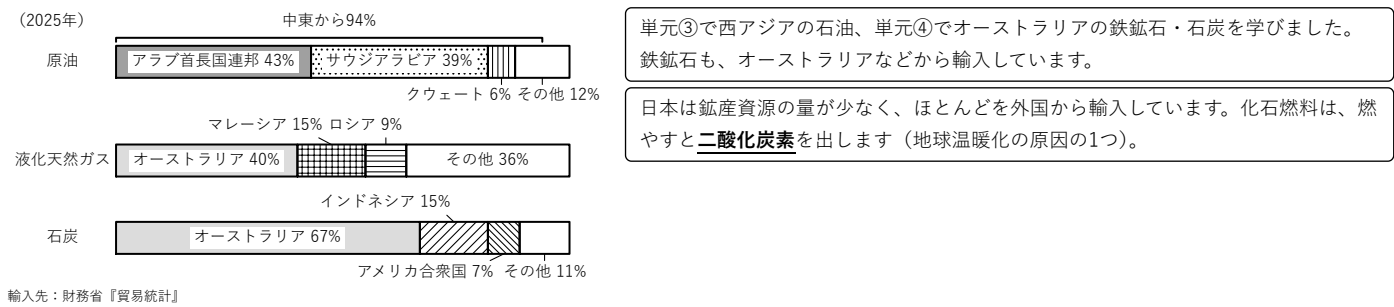
合言葉 「都市は過密、地方は過疎」

日本の特色：人口は大都市に集まり、地方では過疎が進む

4 日本は、資源やエネルギーをどうやって手に入れている？

このページのゴール 日本が鉱産資源のほとんどを輸入していることと、主な輸入先、エネルギー自給率を言える

地下からとれる、くらしや工業に役立つ物を鉱産資源という。石油・石炭・天然ガスは化石燃料ともいう



資源	主な輸入先（2025年）
原油	アラブ首長国連邦 約43%・サウジアラビア 約39%。中東から9割以上
液化天然ガス	オーストラリア 約40%・マレーシア 約15%・ロシア 約9%
石炭	オーストラリア 約7割・インドネシア 約15%

天然ガスは液体にして運ぶ 冷やして液体（液化天然ガス＝LNG）にすると体積が大きくへり、専用の船で運べます。

国内で使うエネルギーのうち、自分の国でまかなえる割合をエネルギー自給率という。日本は約16%（2024年度）。2010年度は20.2%

日本のエネルギーの移り変わり

- ① 1950年代までは、石炭が中心
- ② 1960年代に、石油が中心になった（エネルギー革命）
- ③ 1973年の石油危機で石油の値段が大きく上がり、天然ガスや原子力をふやした
- ④ 今は地球温暖化を防ぐため、二酸化炭素を出さないエネルギーをふやしている

合言葉 「石油は中東、石炭はオーストラリア」

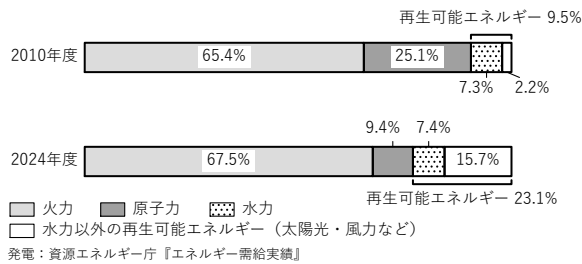
日本の特色：日本は資源が少なく、エネルギーの多くを輸入にたよる

5

日本の電気は、どうやってつくられている？

このページのゴール

火力・水力・原子力・再生可能エネルギーの特徴と課題、発電所が多い場所とそのわけを言える



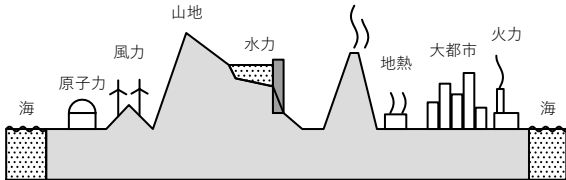
太陽光・風力・地熱・水力・バイオマス（木くずや家畜のふんなど）など、くり返し使え、なくならないエネルギーを再生可能エネルギーという

2024年度は、火力 約7割・再生可能エネルギー（水力をふくむ）約2割・原子力 約1割。

発電	どうやって・よい点	課題	多い場所（わけ）
火力発電	石油・石炭・天然ガスを燃やす。発電量を調整しやすい	二酸化炭素を多く出す。燃料のほとんどが輸入	大都市や工業地域の近くの海沿い（燃料を船で運びやすく、電気を使う所に近い）
水力発電	ダムの水が落ちる力。二酸化炭素を出さない。燃料がいらない	大きなダムをつくれる所は限られる	山地の川の上流（ダムの水を使うので、山の多い内陸）
原子力発電	ウランの核分裂の熱。少ない燃料で多くの電気	事故の時の被害が大きい。使い終わった燃料の処分	海沿いで、大都市から離れた所（冷やすのに海水を使う）
再生可能エネルギー	太陽光・風力・地熱など。二酸化炭素をほとんど出さない	天気や季節で発電量が変わる。費用がかかる	地熱＝火山の近く（九州・東北）／風力＝風の強い海沿いや山



海沿いに並ぶ風力発電の風車
（秋田県秋田市の秋田港）
写真：掬茶（CC BY-SA 4.0）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った



東日本大震災（2011年）のあと

全国の原子力発電所が止まりました。2015年ごろから一部がまた動いています。

資源をむだにしない

省エネルギーやリサイクル。使わなくなった携帯電話などから金や銅を取り出すことを都市鉱山という。

日本の特色：日本の電気の多くは火力でつくられ、再生可能エネルギーをふやすことが課題

6 日本の産業は、どう分けられ、どう変わった？

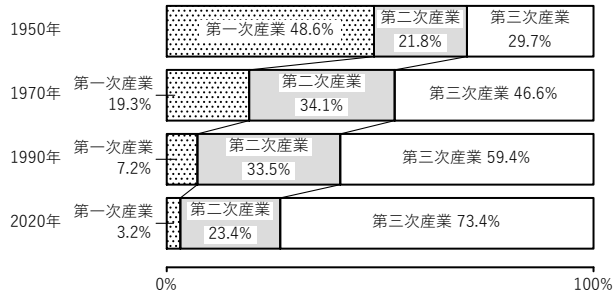
このページのゴール 第一次・第二次・第三次産業の分け方と、日本では第三次産業で働く人が多いことを言う

① 産業の3つの分け方

産業は、第一次産業（農業・林業・漁業）、第二次産業（工業・建設業・鉱業）、第三次産業（商業・サービス業など）の3つに分けられる

産業	何をする？	例の仕事
第一次産業	自然に働きかけて、作物や家畜を育てたり、魚や木をとったりする	農家・漁師
第二次産業	原料を加工して物をつくる。建物をつくる	自動車工場・建設会社
第三次産業	物をつくらず、物を売ったり、サービスを提供したりする	店・病院・学校・銀行・運送・観光・情報通信

② 働く人の割合は、どう変わった？



就業者：総務省統計局『国勢調査』

なぜ第三次産業がふえた？

- ① 工業が発達し、農村から都市へ人が移った
- ② 収入がふえ、外食・旅行・教育・医療などのサービスを買う人がふえた
- ③ 高齢化で、医療・福祉の仕事がふえた
- ④ 情報通信が発達した

注意 × 建設業は、第三次産業 → 建物をつくるので、第二次産業

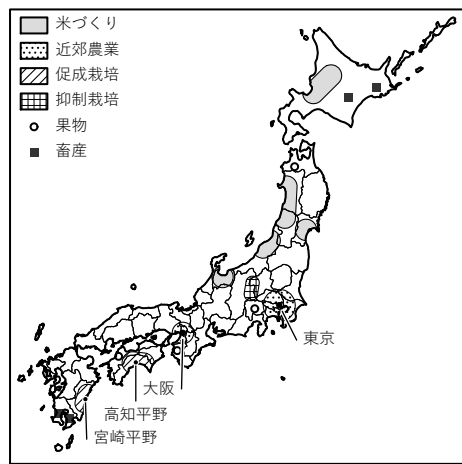
合言葉 「とる・つくる・サービス」

日本の特色：日本では、働く人の約4分の3が第三次産業

2020年は、第一次産業 3.2%・第二次産業 23.4%・第三次産業 73.4%。働く人の約4分の3が、第三次産業です。
1950年は、第一次産業が48.6%で、約半分でした。昔は、第一次産業で働く人がずっと多かったのです。

7 日本の農業には、どんな特色と課題がある？

このページのゴール 米づくり、近郊農業・促成栽培・抑制栽培、食料自給率が低いわけを言える



地図：Natural Earth

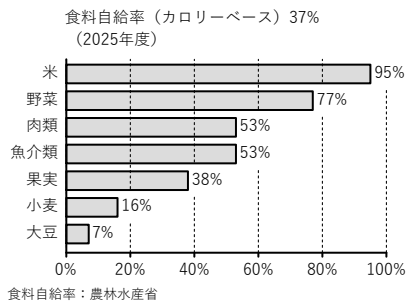
米は日本人の主食です。夏に暑く雨が多い気候が稲作に合い、北海道・東北地方・北陸などでさかんです。米を食べる量は、へってきました。

果物 水はけのよい扇状地や盆地（単元⑤）で果樹園。山梨県のぶどう・もも、青森県・長野県のりんご、和歌山県・愛媛県のみかん。

畜産 北海道の乳牛（牛乳やチーズをつくる＝酪農）。九州地方の南部の豚・肉牛・にわとり。

国内で食べる食料のうち、国内でつくった物の割合を食料自給率という。日本は37%（2025年度、カロリーベース）

野菜づくりのくふう	どうする？（どこで・何を）
<u>近郊農業</u>	大都市の近くで野菜・花・たまごなどをつくり、新鮮なうちに出荷する（千葉県・茨城県など）。輸送費が安い
<u>促成栽培</u>	冬でも暖かい気候とビニールハウスで、ほかの産地より <u>早い</u> 時期に出荷する（高知平野・宮崎平野のピーマン・きゅうりなど）
<u>抑制栽培</u>	夏でもすずしい高原の気候で、ほかの産地より <u>遅い</u> 時期に出荷する（長野県・群馬県の高原のレタス・キャベツなど）



なぜ自給率が低い？ 食生活が変わり、米を食べる量がへって、パン・肉・油を多く食べるようになりました。小麦・大豆・家畜のえさのとうもろこしは、多くを輸入しています（単元④の北アメリカ州）。外国の安い農産物も、たくさん入ってきます。農業で働く人がへり、高齢化していることも課題で、ブランドづくりや、地元でとれた物を地元で食べる地産地消に取り組んでいます。

合言葉 「早めて促成、遅らせて抑制、近くで近郊」

日本の特色：日本の食料自給率は低く、多くの食料を輸入している

8

日本の林業と水産業には、どんな特色と課題がある？

このページのゴール

日本の森林と林業の課題、漁業の種類と、とる漁業から育てる漁業への変化を言える

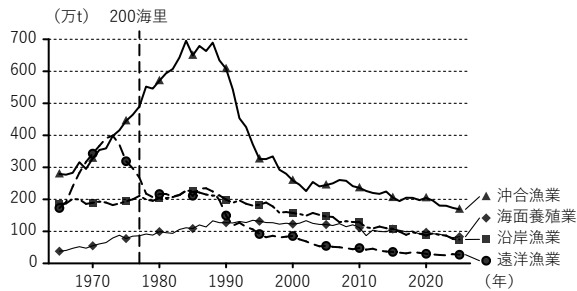
日本は、国土の約3分の2が森林です。木材の自給率は42.5%（2024年）で、半分以上を輸入しています。林業で働く人がへり、高齢化して、手入れされない森林がふえることが課題です。

日本の漁業は、遠洋漁業・沖合漁業・沿岸漁業の「とる漁業」と、養殖業・栽培漁業の「育てる漁業」に分けられる

漁業	どこで・どうやって
遠洋漁業	遠くの海で、長い期間（数か月）かけてとる
沖合漁業	日本の近くの海で、数日かけてとる
沿岸漁業	陸に近い海で、日帰りですとる
養殖業	いけすやいかだで、大きくなるまで育ててからとる
栽培漁業	卵からかえした稚魚や稚貝を、ある程度まで育ててから海に放し、大きくなってからとる



海に浮かぶ養殖のいかだ
(広島県東広島市の三津湾)
写真：東広島市 (CC BY-SA 4.0)。
Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った



漁業：農林水産省『漁業・養殖業生産統計』（1965～1978年は水産庁『水産白書』の図の値）

1984年に約1,282万tでいちばん多く、2025年は約358万t。2025年は沖合漁業が約169万t、遠洋漁業が約27万tです。

なぜ遠洋漁業はへった？

- ① 1970年代の後半から、世界の国々が200海里の排他的経済水域を決め（単元⑤）、外国の海で自由に魚をとれなくなった
- ② 石油危機で、船の燃料が高くなった

とる漁業から、育てる漁業へ

魚介類の自給率は53%（2025年度）で、外国からも多く輸入しています。単元⑤の潮目や大陸棚はよい漁場ですが、とる漁業はへりました。そこで、育てる漁業（養殖業・栽培漁業）に力を入れています。

合言葉 「とる漁業から、育てる漁業へ」

日本の特色：日本の漁業は、とる漁業から育てる漁業へ変わってきている

9 日本の工業は、どこでさかん？

このページのゴール 加工貿易と、太平洋ベルト・主な工業地帯と工業地域を言える

原料や燃料を輸入し、加工してつくった工業製品を輸出する貿易を加工貿易という

日本の工業は、はじめ糸や布などをつくる軽工業が中心でした。1960年代ごろから、鉄鋼・石油化学・機械などの重化学工業が発達しました。

地図：Natural Earth

関東地方から九州地方の北部の海沿いに、工業地帯・工業地域が帯のように連なる地域を太平洋ベルトという

なぜ海沿いに集まった？

- ① 原料・燃料を船で輸入しやすく、製品を輸出しやすい港がある（加工貿易）
- ② 平野に大都市があり、働く人や製品を買う人が多い
- ③ うめ立て地に、大きな工場をつくれる

工業地帯	都府県など	工業地域	都府県など
<u>京浜工業地帯</u>	東京都・神奈川県	<u>京葉工業地域</u>	千葉県
<u>中京工業地帯</u>	愛知県・三重県。自動車などの機械工業が中心。製造品出荷額等が日本一	<u>瀬戸内工業地域</u>	岡山県・広島県・山口県・香川県・愛媛県など
<u>阪神工業地帯</u>	大阪府・兵庫県	東海工業地域	静岡県
<u>北九州工業地域</u>	福岡県（北九州工業地帯ともいう）	北陸工業地域	北陸地方（日本海側）
		関東内陸工業地域	群馬県・栃木県・埼玉県など（内陸。10ページ）

注意 × 太平洋ベルトは、太平洋にうかぶ島々のこと → 関東から九州北部の海沿いに連なる工業地帯・工業地域の帯

合言葉 「原料を輸入し、製品を輸出する加工貿易」

日本の特色：日本の工業は、太平洋ベルトの海沿いで発達した

10 日本の工業は、どう変わってきた？

このページのゴール 工業が内陸へ広がったこと、海外での生産がふえたこと、産業の空洞化を言える

ふり返し 9ページで、日本の工業は太平洋ベルトの海沿いで発達したと学びました。その後、工場は内陸や海外へも広がっていきます。

① 内陸へ広がる工業

高速道路が整備され、関東の内陸や、東北・九州の内陸に工場がふえました。IC（集積回路）は小さく軽く、値段が高い物です。飛行機やトラックで運べるので、空港や高速道路の近くに工場が多くあります。

② 海外での生産がふえた

貿易をめぐる、国と国の間で起きる対立を貿易摩擦という

- ① 1980年代、日本の自動車などの輸出がふえすぎて、アメリカなどとの間で貿易摩擦が起きた
- ② そこで、日本の会社がアメリカやヨーロッパに工場を建て、現地で生産するようになった
- ③ 1990年代から、働く人の給料（人件費）が安い中国や東南アジアに、工場を移す会社がふえた（単元③の東南アジアの工業化）

工場が海外に移り、国内の工場や働く場所が減ることを産業の空洞化という

③ 工業の変化をまとめよう

年代	できごと	工業のようす
1960年代ごろ～	重化学工業が発達	太平洋ベルトに工業地帯・工業地域が連なる
1980年代	貿易摩擦	海外に工場を建て、現地生産
1990年代～	アジアへ工場が移る	産業の空洞化
今	高い技術を生かす	<u>先端技術産業</u>

これからの日本の工業は、高い技術を生かした製品をつくる先端技術産業が大切になっています。

注意 ×産業の空洞化は、工業がさかんになりすぎること → 工場が海外に移り、国内の工場や仕事が減ること

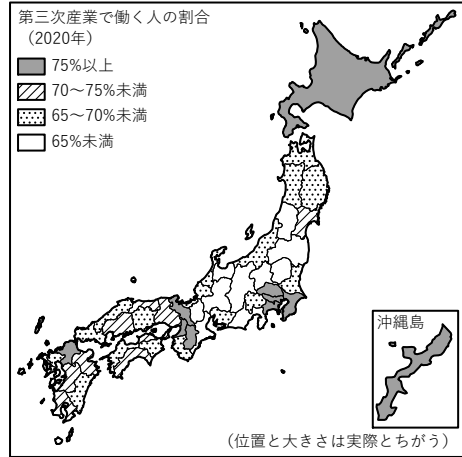
合言葉 「貿易摩擦で現地生産、海外に移って空洞化」

日本の特色：工場が内陸や海外へ広がり、産業の空洞化が課題になっている

11 商業やサービス業は、どこでさかん？

このページのゴール 第三次産業の種類と、さかんな地域とそのわけを言える

第三次産業の種類	例
商業	スーパー・コンビニ・ネットショッピング
運輸・情報通信	鉄道・トラック・インターネットの会社
金融	銀行
医療・福祉	病院・介護の仕事
教育	学校
観光・飲食	ホテル・飲食店



就業者：総務省統計局『国勢調査』 地図：Natural Earth

さかんな所とわけ

- ① 大都市（とくに東京）：人口が多く、会社の本社・銀行・情報通信の会社が集まる
- ② 観光地：観光客を相手にする、ホテル・飲食・運輸の仕事が多い

2020年に第三次産業で働く人の割合が高いのは、東京都84.6%・沖縄県81.7%（観光）・神奈川県79.0%。低いのは、山形県・長野県62.8%、栃木県63.5%（工業や農業で働く人が多い県）です。

変わる商業とサービス 郊外の大きな店やコンビニがふえ、インターネットで買うネットショッピングも広がりました。高齢化で、医療・介護の仕事がふえています。

コンピューターやインターネットを使って、情報をやりとりする技術を情報通信技術（ICT）という

注意 × 第三次産業は、大都市にしかない → **どの地域にも店・病院・学校があり、観光地でもさかん**

合言葉 「人が集まる所に、サービスが集まる」

日本の特色：第三次産業は、大都市や観光地でとくにさかん

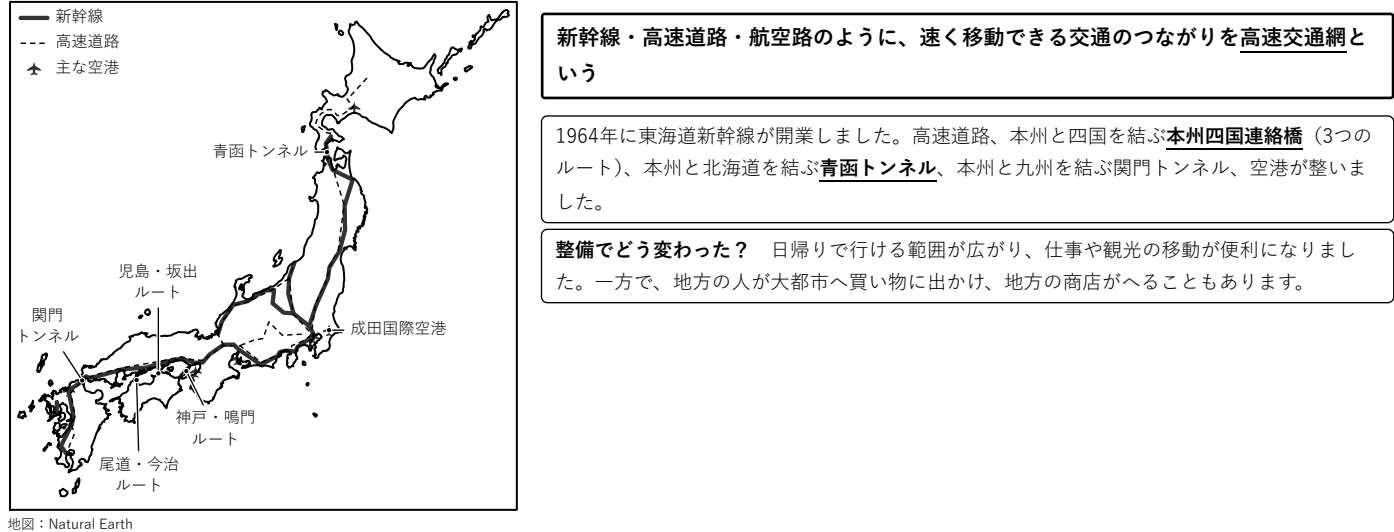
12 国内では、人や物をどうやって運んでいる？

このページのゴール 輸送手段の特徴と使い分け、高速交通網の整備とそのいきょうを言える



輸送手段	特徴
自動車（トラック）	家や店の前まで運べる
船	重い物を大量に安く運べるが、時間がかかる
鉄道	大量に運べ、時間が正確。二酸化炭素が少ない
航空機	速いが、運賃が高い

人の移動は、きょりで使い分ける 近いきよりは自動車や鉄道、東京～大阪くらいのきよりは新幹線、東京～札幌・福岡・那覇のような遠いきよりは飛行機を使う人が多い。



注意 × 国内の貨物は、鉄道でいちばん多く運ばれている → **トラックが約6割、船が約4割。鉄道は約4%**

合言葉 「家の前までトラック、重い物は船」

日本の特色：国内の物の輸送はトラックが中心で、高速交通網が全国に広がる

13 日本と世界は、どう結びついている？

このページのゴール 海上輸送と航空輸送のちがいを、貿易額の多い港、通信網の広がりと言える

① 海上輸送と航空輸送

	速さ	運賃	一度に運べる量	主に運ぶ物
船	おそい	安い	大量	原油・鉄鉱石・石炭・自動車など重い物
航空機	速い	高い	少し	IC などの小さく軽くて値段の高い物や、新鮮さが大切な物

船か飛行機か、どう決める？（輸送きより・時間・運ぶ物の重さと値段で使い分けます）

- ① 重くて大量の物は、運賃の安い船
- ② 小さく軽くて値段の高い物は、運賃が高くても飛行機
- ③ 新鮮さが大切で、急ぐ物も飛行機

国際貨物を重さで見ると、99.7%が船（海運）で、航空は0.3%です（2024年）。

② 貿易額の多い港



コンテナ船とコンテナふ頭
（愛知県の名古屋港）
写真：ccfarmer（CC BY 3.0）。Wikimedia
Commons より、白黒にした

順位	港（2025年）	貿易額
1位	成田国際空港（千葉県）	約41兆円
2位	東京港	約25兆円
3位	名古屋港	約24兆円

名古屋港は輸出額では、成田国際空港に次ぐ2位で、中京工業地帯の近くにあります。**空港が貿易額日本一の港**です。

③ 通信で、世界とつながる

インターネットで、世界中と情報をやりとりします。国と国の間の通信の多くは、**海底ケーブル**を通ります。日本は、海外との空や海の交通網・通信網が集まる拠点の1つです。

注意 × 日本への輸出入の荷物は、重さで見ると飛行機で運ぶ物が多い → **重さの99.7%は船**。飛行機は**運ぶ量は少ないが、値段の高い物が多い**

合言葉 「世界とは、船と飛行機と海底ケーブルでつながる」

日本の特色：日本は、船・飛行機・通信網で世界と結びつく拠点の1つ

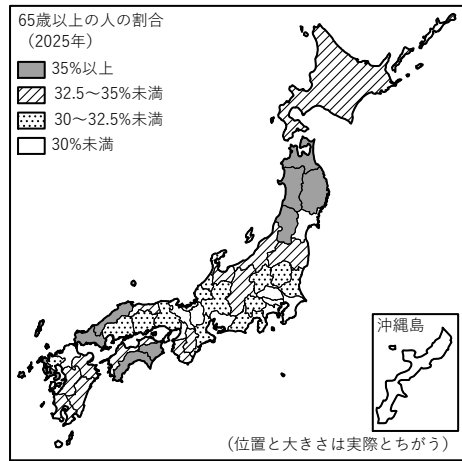
14 いろいろな見方で、日本を分けてみよう

このページのゴール 主題図（階級区分図など）を読み、見方を決めて日本を地域区分できる

ある見方（ものさし）で、似た所どうしをまとめて地域に分けることを地域区分という

単元⑤の7地方区分や、6つの気候区分も、地域区分の1つです。ある1つのテーマを表した地図を主題図といいます。

主題図	何で表す？
階級区分図	数の大きさをいくつかの段階に分け、色やもようの濃さで表す（3ページの人口密度、11ページの第三次産業、この下の地図）
ドットマップ	点の数で分布を表す
図形表現図	円や棒の大きさを量を表す
流線図	矢印の太さで、動く物の量と向きを表す



人口：総務省統計局『国勢調査』 地図：Natural Earth

地域区分の手順

- ① 何で分けるか（見方）を決める
- ② 段階を決めて地図にぬる
- ③ 似た所をまとめる
- ④ 共通点やちがいを、わけを考える

くらべてみよう 3ページの人口密度の地図と、この65歳以上の割合（2025年）の地図をくらべます。低いのは東京都22.8%・沖縄県24.5%・愛知県25.8%で、東京都と愛知県は大都市のある所です。高いのは秋田県40.0%・高知県36.9%・青森県36.3%です。

日本を見る4つの見方	例	学んだ所
自然環境	7地方区分・6つの気候区分	単元⑤
人口	人口密度・高齢者の割合	2・3・14ページ
資源・エネルギーと産業	発電所・工業地帯・第三次産業の割合	5・9・11ページ
交通・通信	高速交通網	12ページ

注意 × 日本の分け方は、7地方区分で決まっている → 何で分けるか（見方）で、分け方が変わる

合言葉 「見方を決めて、地図で分ける」

日本の特色：見方を変えると、日本はいろいろな地域に分けられる

1 全体像	2・3 人口	4・5 資源とエネルギー	6～11 産業	12・13 交通・通信	14 地域区分	15 まとめ
-------	--------	--------------	---------	-------------	---------	--------

15 日本の人口・資源・産業には、どんな特色と課題がある？

このページのゴール この単元で学んだことを使って、日本の特色と課題を説明できる（1ページの問いの答え）

テーマ（ページ）	日本の特色	課題・気をつける点
人口の移り変わり（2）	少子高齢化が進み、人口がへり始めている	働く世代がへり、医療・介護・年金を支える人の負担が大きい
人口の分布（3）	人口は大都市に集まり、地方では過疎が進む	大都市は過密（渋滞・住宅不足）、地方は学校や病院、バスや鉄道がへる
資源とエネルギー（4）	資源が少なく、エネルギーの多くを輸入にたよる（自給率は約16%）	化石燃料は二酸化炭素を出す
発電（5）	電気の多くは火力でつくられる	再生可能エネルギーをふやす（天気で発電量が変わる）
産業の分類（6）	働く人の約4分の3が第三次産業	第一次産業で働く人の割合が大きくへった
農業（7）	食料自給率は37%で、多くの食料を輸入	農業で働く人がへり、高齢化している
林業と水産業（8）	木材の半分以上を輸入。とる漁業から育てる漁業へ	手入れされない森林。遠洋漁業がへった
工業（9・10）	太平洋ベルトの海沿いで発達	工場が海外に移る産業の空洞化
第三次産業（11）	大都市や観光地でさかん	高齢化で医療・介護の仕事がふえる
国内の交通（12）	トラックが中心。高速交通網が広がる	地方の商店がへることもある
世界との結びつき（13）	船・飛行機・通信網で世界と結びつく拠点の1つ	重い物は船、軽くて高い物は飛行機と使い分ける
地域区分（14）	見方を変えると、いろいろな地域に分けられる	見方を決めてから地図で分ける

外国の人の誤解を解こう

誤解	正しい説明
日本は人が多いので、どこも人でいっぱい	人口は大都市に集まり、地方では過疎が進む（3ページ）
日本は工業国なので、資源も自分の国でまかなえる	エネルギー自給率は約16%で、原料や燃料のほとんどを輸入（4ページ）
日本の人は、多くが工場で働いている	働く人の約4分の3は第三次産業（6ページ）

問いの答えの例 日本は少子高齢化が進み、人口がへり始めています。人口は大都市に集まり、地方では過疎が進みます。資源が少なく、エネルギーや食料の多くを輸入し、電気の多くは火力でつくっています。働く人の約4分の3は第三次産業で、工業は太平洋ベルトで発達しましたが、工場が海外に移る産業の空洞化が課題です。高速交通網や港・空港・通信網で、国内と世界が結びついています。

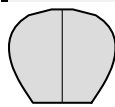
次の学習へ 中2の日本の諸地域で、各地方の自然・人口・産業・交通をくわしく学びます。

注意 × 日本の課題は、どの地域でも同じ → **大都市では過密、地方では過疎や高齢化と、地域によって課題がちがう**

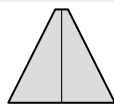
確認問題① 人口・資源とエネルギー・産業の分け方

答えと解説は21～23ページ（11・12枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

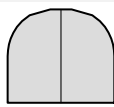
1 人口について、次の問いに答えなさい。【2・3ページ】



ア



イ



ウ

図のア～ウは、人口ピラミッドの3つの型です。ア～ウの型の名前を書きなさい。

- (1) ア _____
(2) イ _____
(3) ウ _____

- (4) 今の日本の人口ピラミッドに近い型を、ア～ウから選びなさい。 _____
(5) 生まれる子どもがへり、人口に占める65歳以上の高齢者の割合が高くなることを、何といいますか。 _____
(6) 1人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均を、何といいますか。 _____
(7) 1km²あたりの人口を、何といいますか。 _____
(8) 人口が集まりすぎることを、何といいますか。 _____
(9) 東京圏（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）の人口は、全国の人口の何割に近いですか。
ア 約1割 イ 約5割 ウ 約3割 _____
(10) 地価の高い都心から郊外へ人が移り、都心の人口が減って郊外の人口が増える現象を、何といいますか。 _____
(11) 都市で生まれ育った人が、地方に移り住むことを、何といいますか。
ア リターン イ イターン ウ ニュータウン _____
(12) 人口がへりすぎて、地域の生活を保つのが難しくなることを、何といいますか。 _____

2 資源とエネルギーについて、次の問いに答えなさい。【4・5ページ】

- (1) 石油・石炭・天然ガスをまとめた名前を書きなさい。 _____
(2) 日本の原油の輸入先（2025年）として、正しい組み合わせを選びなさい。
ア ロシア・マレーシア イ アラブ首長国連邦・サウジアラビア ウ アメリカ合衆国・インドネシア _____
(3) 日本の石炭の輸入先で、いちばん多い国（2025年）を書きなさい。 _____
(4) 天然ガスを冷やして液体にした物を、何といいますか。 _____
(5) 日本のエネルギー自給率（2024年度）に近い数を選びなさい。
ア 約6% イ 約36% ウ 約16% _____
(6) 日本の発電（2024年度）で、いちばん割合が大きい発電を書きなさい。 _____
(7) 少ない燃料で多くの電気をつくれるが、事故の時の被害が大きい発電を選びなさい。
ア 原子力発電 イ 水力発電 ウ 風力発電 _____
(8) 太陽光や風力のように、くり返し使え、なくならないエネルギーを、何といいますか。 _____
(9) 火山の近くの地下の熱を使う発電を、書きなさい。 _____

3 産業の分け方について、次の問いに答えなさい。【6ページ】

産業の3つの分け方を、ア 第一次産業 イ 第二次産業 ウ 第三次産業 とします。

- (1) 建設業は、ア～ウのどれですか。 _____
(2) 漁業は、ア～ウのどれですか。 _____
(3) 病院や学校の仕事は、ア～ウのどれですか。 _____
(4) 2020年に、日本で働く人の割合がいちばん高い産業を、ア～ウから選びなさい。 _____
(5) (4)の産業で働く人は、2020年に、働く人全体のどのくらいですか。
ア 約4分の3 イ 約半分 ウ 約4分の1 _____

確認問題② 農業・林業と水産業

答えと解説は21～23ページ（11・12枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

4 農業について、次の問いに答えなさい。【7ページ】

- (1) 大都市の近くで、新鮮な野菜などをつくって出荷する農業を、何とといいますか。 _____
- (2) 冬でも暖かい気候とビニールハウスを使って、ほかの産地より早い時期に出荷するくふうを、何とといいますか。（ひらがなでもよい） _____
- (3) (2)のくふうがさかんな所を選びなさい。
ア 長野県の高原 イ 高知平野 ウ 石狩平野 _____
- (4) 夏でもすずしい高原の気候を使って、ほかの産地より遅い時期に出荷するくふうを、何とといいますか。（ひらがなでもよい） _____
- (5) 国内で食べる食料のうち、国内でつくった物の割合を、何とといいますか。 _____
- (6) (5)の割合（2025年度）が、品目別でいちばん低い物を選びなさい。
ア 小麦 イ 大豆 ウ 野菜 _____
- (7) (5)の割合が低いわけとして、正しい文を選びなさい。
ア 食生活が変わり、パンや肉を多く食べるようになり、小麦などを多く輸入しているから イ 米を食べる量がふえ、米の輸入がふえたから
ウ 農業で働く人がふえ、つくる量が多すぎるから _____
- (8) 北海道で、乳牛を育てて、牛乳やチーズをつくる農業を、何とといいますか。 _____
- (9) すずしい青森県でさかんにつくられている果物を選びなさい。
ア みかん イ りんご ウ ぶどう _____

5 林業と水産業について、次の問いに答えなさい。【8ページ】

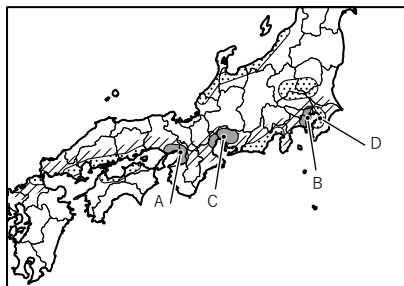
- (1) 日本の国土にしめる森林の割合として、正しい物を選びなさい。
ア 約3分の2 イ 約半分 ウ 約3分の1 _____
- (2) 日本の近くの海で、数日かけて魚をとる漁業を、何とといいますか。 _____
- (3) 卵からかえした稚魚や稚貝をある程度まで育てて海に放し、大きくなってからとる漁業を、何とといいますか。 _____
- (4) いけすやいかだで、大きくなるまで育ててからとる漁業を、何とといいますか。 _____
- (5) 遠洋漁業がへったわけとして、正しい文を選びなさい。
ア 日本の近くの海で、魚がふえすぎたから イ 魚を育てて海に放す漁業が、なくなったから
ウ 世界の国々が200海里の排他的経済水域を決め、外国の海で自由に魚をとれなくなったから _____
- (6) 日本の木材（2024年）について、正しい文を選びなさい。
ア ほとんどを国内の木材でまかなっている イ 半分以上を輸入している ウ 輸入していない _____
- (7) 日本の林業の課題として、正しい文を選びなさい。
ア 手入れされない森林がふえている イ 林業で働く人がふえ、高齢者が少なくなっている ウ 木材の自給率が高くなりすぎている _____

確認問題 ③ 工業・商業とサービス業

答えと解説は21～23ページ（11・12枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

6 工業について、次の問いに答えなさい。【9・10ページ】

- (1) 原料や燃料を輸入し、加工してつくった工業製品を輸出する貿易を、何とといいますか。 _____
- (2) 関東地方から九州地方の北部の海沿いに、工業地帯・工業地域が帯のように連なる地域を、何とといいますか。 _____



図のA～Dは、工業地帯・工業地域です。A～Dの名前を書きなさい。

- (3) A _____
- (4) B _____
- (5) C _____
- (6) D _____

- (7) A～Dのうち、製造品出荷額等が日本で、自動車などの機械工業が中心の工業地帯を、記号で答えなさい。 _____
- (8) 関東や東北、九州の内陸に工場がふえたわけとして、正しい物を選びなさい。
ア 海に近く、原料を船で運びやすいから イ 新幹線の本数がふえたから ウ 高速道路が整備されたから _____
- (9) 工場が海外に移り、国内の工場や働く場所が減ることを、何とといいますか。 _____
- (10) 1980年代、日本の自動車などの輸出がふえすぎて、アメリカなどとの間で起きた問題を、何とといいますか。 _____

7 商業とサービス業について、次の問いに答えなさい。【11ページ】

- (1) 第三次産業にあたる仕事を選びなさい。
ア 農業 イ 銀行 ウ 自動車工場 _____
- (2) コンピューターやインターネットを使って、情報をやりとりする技術を、何とといいますか。 _____
- (3) 大都市（とくに東京）で第三次産業がさかんなわけとして、正しい文を選びなさい。
ア 農地が広く、米づくりがさかんだから イ 工場の数が多いから ウ 人口が多く、会社の本社・銀行・情報通信の会社が集まるから _____
- (4) 2020年に、第三次産業で働く人の割合が高い都道府県（観光がさかん）として、正しい物を選びなさい。
ア 沖縄県 イ 山形県 ウ 長野県 _____

確認問題 ④ 交通と通信・地域区分

答えと解説は21～23ページ（11・12枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

8 交通と通信について、次の問いに答えなさい。【12・13ページ】

- (1) 国内の貨物（2024年度）を運ぶ割合がいちばん高い輸送手段を、書きなさい。 _____
- (2) 重い物を大量に安く運べるが、時間がかかる輸送手段を、書きなさい。 _____
- (3) 速いが、運賃が高い輸送手段を、書きなさい。 _____
- (4) 本州と四国を結ぶ3つのルートがある橋を、まとめて何といいますか。 _____
- (5) 本州と北海道を結ぶものを選びなさい。
ア 関門トンネル イ 青函トンネル ウ 瀬戸大橋 _____
- (6) 2025年に、貿易額（輸出と輸入の合計）が日本一だった港を、書きなさい。 _____
- (7) 国際貨物（2024年）を重さで見たとき、ほとんどを運ぶ輸送手段を選びなさい。
ア 鉄道輸送 イ 航空輸送 ウ 海上輸送 _____
- (8) 国と国の間の通信の多くが通る物を選びなさい。
ア 海底ケーブル イ 航空路 ウ 高速道路 _____
- (9) 1964年に開業した高速交通を選びなさい。
ア 青函トンネル イ 東海道新幹線 ウ 関門トンネル _____

9 地域区分について、次の問いに答えなさい。【14ページ】

- (1) 数の大きさをいくつかの段階に分け、色やもようの濃さで表した地図を、何といいますか。 _____
- (2) 主題図の種類と表し方の組み合わせとして、正しい物を選びなさい。
ア ドットマップ 円や棒の大きさで量を表す イ 流線図 矢印の太さで、動く物の量と向きを表す ウ 図形表現図 点の数で分布を表す _____
- (3) 地域区分の手順を、正しい順に並べた物を選びなさい。
あ 似た所をまとめる い 何で分けるか（見方）を決める う 共通点やちがいを、わけを考える え 段階を決めて地図にぬる
ア い→あ→え→う イ え→い→あ→う ウ い→え→あ→う _____
- (4) 2025年に、65歳以上の割合がいちばん高い都道府県を選びなさい。
ア 秋田県 イ 東京都 ウ 沖縄県 _____
- (5) 地域区分について、正しい文を選びなさい。
ア 日本の地域区分は、7地方区分に決まっている イ 地域区分は、国の決まりで1つに決まっている ウ 何で分けるか（見方）によって、分け方が変わる _____

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

人口（2・3ページ）

人口ピラミッドの型：**富士山型**=子どもが多く高齢者が少ない／**つりがね型**=子どもと高齢者の数の差が小さい／**つぼ型**=子どもが少なく高齢者が多い（今の日本）。人口 約1億2300万人（2025年）。1965～1970年の間に1億人をこえ、2008～2010年ごろにいちばん多かった。少子化（子どもがへる）＋高齢化（65歳以上の割合が高くなる）＝少子高齢化。65歳以上の割合 29.4%（2025年）。合計特殊出生率＝1人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均（2025年は1.14。人口を保つには約2.07）。第1次ベビーブーム＝1947～1949年。人口密度＝1km²あたりの人口（約330人、2025年）。三大都市圏に人口の約半分、東京圏に約3割。地方中枢都市＝札幌市・仙台市・広島市・福岡市。ドーナツ化現象＝都心から郊外へ。都心回帰＝都心の人口がまたふえる。Uターン＝生まれた地方にもどる。Iターン＝都市生まれの人が地方に移り住む。

	過密（人口が集まりすぎる）	過疎（人口がへりすぎる）
問題	交通渋滞・電車の混雑・住宅不足・ごみ	バスや鉄道の本数がへる・学校や病院が閉じる・高齢者の割合が高い
取り組み	ニュータウン・再開発・鉄道の整備	地域おこし（特産品・観光）・移り住む人をむかえる

資源とエネルギー（4・5ページ）

鉱産資源のほとんどを輸入。化石燃料＝石油・石炭・天然ガス（燃やすと二酸化炭素）。輸入先（2025年）：原油＝アラブ首長国連邦・サウジアラビア（中東から94%）／液化天然ガス（LNG）＝オーストラリア・マレーシア・ロシア／石炭＝オーストラリア（約7割）・インドネシア。エネルギー自給率 約16%（2024年度）。移り変わり：石炭 → 石油（エネルギー革命）→ 石油危機（1973年）→ 二酸化炭素を出さないエネルギーへ。

発電	特徴	場所
火力（約7割）	石油・石炭・天然ガスを燃やす。二酸化炭素を多く出す	大都市や工業地域の近くの海沿い
水力	ダムの水の力。二酸化炭素を出さない	山地の川の上流
原子力（約1割）	少ない燃料で多くの電気。事故の被害が大きい	海沿いで大都市から離れた所
再生可能エネルギー（約2割）	太陽光・風力・地熱・水力・バイオマス。天気で発電量が変わる	地熱＝火山の近く／風力＝風の強い所

産業（6～11ページ）

第一次産業（農業・林業・漁業）3.2%／第二次産業（工業・建設業・鉱業）23.4%／第三次産業（商業・サービス業など）73.4%（2020年）。農業：近郊農業（大都市の近く）・促成栽培（早める。高知平野・宮崎平野）・抑制栽培（遅らせる。長野県・群馬県の高原）。食料自給率 37%（2025年度）。木材の自給率 42.5%（2024年）。漁業：遠洋（数か月）・沖合（数日）・沿岸（日帰り）・養殖業（最後まで育てる）・栽培漁業（育てて放す）。遠洋漁業がへったわけ＝200海里・石油危機。加工貿易＝原料・燃料を輸入し、製品を輸出。軽工業 → 重化学工業。太平洋ベルト＝関東～九州北部の海沿い。京浜（東京・神奈川）・中京（愛知・三重。出荷額日本一）・阪神（大阪・兵庫）工業地帯／北九州・京葉・瀬戸内・東海・北陸・関東内陸工業地域。貿易摩擦 → 現地生産 → 産業の空洞化。先端技術産業。第三次産業は大都市（東京）や観光地でさかん。情報通信技術（ICT）。

交通・通信（12・13ページ）

国内の貨物（2024年度）：トラック57.4%・船37.9%・鉄道4.4%・航空0.2%。船＝重い物を大量に安く（時間がかかる）／鉄道＝時間が正確／航空機＝速いが運賃が高い／トラック＝家の前まで。高速交通網＝新幹線（1964年に東海道新幹線）・高速道路・本州四国連絡橋（3ルート）・青函トンネル・関門トンネル・空港。国際貨物は重さで99.7%が船。航空機は小さく軽く値段の高い物（IC など）。貿易額 1位 成田国際空港（2025年）。海底ケーブル。

地域区分（14ページ）

地域区分＝ある見方で似た所をまとめて分ける。主題図：階級区分図（段階を色・もようの濃さで）・ドットマップ（点の数）・図形表現図（円や棒の大きさ）・流線図（矢印の太さ）。手順：① 見方を決める ② 段階を決めて地図にぬる ③ 似た所をまとめる ④ 共通点やちがい、わけを考える。
合言葉 「人口・資源・産業・交通で日本をつかむ」／「都市は過密、地方は過疎」／「石油は中東、石炭はオーストラリア」／「早めて促成、遅らせて抑制、近くで近郊」／「とる漁業から、育てる漁業へ」／「原料を輸入し、製品を輸出する加工貿易」

確認問題の答えと解説

1【2・3ページ】

- (1) **つぼ型**
子どもが少なく、高齢者が多い、上がふくらむ形。人口がへっていく。【2】
- (2) **富士山型**
底辺が広い三角形で、子どもが多く、高齢者が少ない。【2】
- (3) **つりがね型**
子どもと高齢者の数の差が小さい、台形に近い形。【2】
- (4) **ア**
日本は、富士山型 → つりがね型 → 今はつぼ型に近い。【2】
- (5) **少子高齢化**
少子化と高齢化を合わせた言い方。【2】
- (6) **合計特殊出生率**
2025年は1.14で過去最低。人口を保つには約2.07が必要。【2】
- (7) **人口密度**
日本の人口密度は約330人（2025年）。【3】
- (8) **過密**
交通渋滞・住宅不足などが起きる。【3】
- (9) **ウ**
東京圏は全国の30.1%（約3割）。【3】
- (10) **ドーナツ化現象**
都心に高層マンションなどが建ち、人口がまたふえることは、都心回帰。【3】
- (11) **イ**
Iターン。Uターンは、地方から都市に出た人が、生まれた地方にもどること。【3】
- (12) **過疎**
バスや鉄道がへり、学校や病院が閉じる。【3】

2【4・5ページ】

- (1) **化石燃料**
燃やすと二酸化炭素を出す。【4】
- (2) **イ**
アラブ首長国連邦（約43%）・サウジアラビア（約39%）など、中東から9割以上。【4】
- (3) **オーストラリア**
約67%（約7割）。次がインドネシア（約15%）。【4】
- (4) **液化天然ガス（LNG）**
体積が大きくなるので、専用の船で運べる。【4】
- (5) **ウ**
約16%（16.3%）。ほとんどを輸入している。【4】
- (6) **火力発電**
火力が67.5%（約7割）。【5】

- (7) **ア**
原子力発電。使い終わった燃料の処分も課題。【5】
- (8) **再生可能エネルギー**
二酸化炭素をほとんど出さない。天気や季節で発電量が変わる。【5】
- (9) **地熱発電**
火山の近く（九州・東北）にある。【5】
- 3【6ページ】
- (1) **イ**
建物をつくるので、第二次産業。【6】
- (2) **ア**
魚をとる漁業は、農業・林業と同じ第一次産業。【6】
- (3) **ウ**
物をつくらず、サービスを提供する仕事は、第三次産業。【6】
- (4) **ウ**
第三次産業が73.4%。第二次産業は23.4%、第一次産業は3.2%。【6】
- (5) **ア**
73.4%で、約4分の3。【6】
- 4【7ページ】
- (1) **近郊農業**
大都市の近くなので、輸送費が安く、新鮮なうちに出荷できる。【7】
- (2) **促成栽培**
早める＝促成。【7】
- (3) **イ**
高知平野・宮崎平野でつくる。長野県の高原は、遅く出荷する方。【7】
- (4) **抑制栽培**
遅らせる＝抑制。長野県・群馬県の高原のレタスやキャベツ（高原野菜）。【7】
- (5) **食料自給率**
日本は37%（2025年度、カロリーベース）。【7】
- (6) **イ**
大豆は7%、小麦は16%、野菜は77%。【7】
- (7) **ア**
食生活が変わり、パンや肉を多く食べるようになった。小麦・大豆は多くを輸入している。【7】
- (8) **酪農**
北海道では、乳牛を育てて牛乳やチーズをつくる。これを酪農という。【7】
- (9) **イ**
りんごは、すずしい青森県・長野県。みかんは暖かい和歌山県・愛媛県、ぶどうは山梨県。【7】

5【8ページ】

(1) ア

国土の約3分の2が森林。【8】

(2) 沖合漁業

遠くで数か月かけるのは遠洋漁業、陸に近い海で日帰りなのは沿岸漁業。2025年は生産量がいちばん多い。【8】

(3) 栽培漁業

育てて海に放す。「育てる漁業」の1つ。【8】

(4) 養殖業

最後まで育てる。栽培漁業は、海に放す。【8】

(5) ウ

1970年代の後半から200海里の排他的経済水域が決まり、外国の海で自由にとれなくなった。石油危機で船の燃料も高くなった。【8】

(6) イ

木材の自給率は42.5%で、半分以上を輸入している。【8】

(7) ア

林業で働く人がへり、高齢化している。手入れされない森林がふえることが課題。【8】

6【9・10ページ】

(1) 加工貿易

日本の工業の発展を支えた貿易。【9】

(2) 太平洋ベルト

海沿いは、原料・燃料を船で輸入しやすく、製品を輸出しやすい。【9】

(3) 阪神工業地帯

大阪府・兵庫県。大阪湾の沿岸。【9】

(4) 京浜工業地帯

東京都・神奈川県。東京湾の沿岸。【9】

(5) 中京工業地帯

愛知県・三重県。伊勢湾の沿岸。【9】

(6) 京葉工業地域

千葉県。東京湾の東側。【9】

(7) C

日本一は中京工業地帯。【9】

(8) ウ

高速道路が整備され、内陸でも製品や部品を運びやすくなった。【10】

(9) 産業の空洞化

1990年代から、人件費の安い中国や東南アジアに工場を移す会社がふえた。【10】

(10) 貿易摩擦

その後、日本の会社はアメリカやヨーロッパに工場を建て、現地で生産するようになった。【10】

7【11ページ】

(1) イ

銀行は金融で、サービス業。農業は第一次産業、自動車工場は第二次産業。【11】

(2) 情報通信技術（ICT）

ICT。【11】

(3) ウ

人口が多く、会社の本社・銀行・情報通信の会社が集まる。【11】

(4) ア

沖縄県は81.7%。山形県・長野県は62.8%で低い（工業や農業で働く人が多い）。【11】

8【12・13ページ】

(1) **トラック（自動車）**

57.4%で、約6割。船は37.9%、鉄道は4.4%、航空は0.2%。【12】

(2) **船**

国内の貨物の約4割も運ぶ。【12】

(3) **航空機**

速いが、運賃が高い。小さく軽くて値段の高い物を運ぶ（13ページ）。【12】

(4) **本州四国連絡橋**

神戸・鳴門ルート、児島・坂出ルート（瀬戸大橋）、尾道・今治ルート。【12】

(5) **イ**

青函トンネル。関門トンネルは本州と九州を結ぶ。【12】

(6) **成田国際空港**

約41兆円。2位は東京港、3位は名古屋港。空港が貿易額日本一の港。【13】

(7) **ウ**

重さの99.7%は海上輸送（船）。航空は0.3%。【13】

(8) **ア**

海底ケーブル。【13】

(9) **イ**

1964年に東海道新幹線が開業した。【12】

9【14ページ】

(1) **階級区分図**

人口密度や第三次産業の割合の地図も、この種類。【14】

(2) **イ**

流線図は矢印の太さで、動く物の量と向きを表す。ドットマップは点の数、図形表現図は円や棒の大きさを表す。【14】

(3) **ウ**

い（見方を決める）→ え（段階を決めて地図にぬる）→ あ（似た所をまとめる）→ う（共通点やちがいを、わけを考える）。【14】

(4) **ア**

秋田県が40.0%。東京都は22.8%、沖縄県は24.5%で低い。【14】

(5) **ウ**

何で分けるか（見方）で、分け方が変わる。7地方区分は地域区分の1つ。【14】